

<京都大学教授・土佐および研究内容について>

土佐研究室では、芸術とテクノロジーをつなぐ「アートイノベーション」を研究しています。

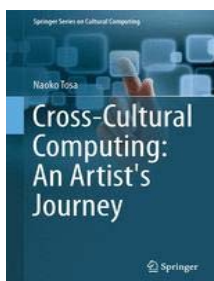
インターネットにより地域や民族に根ざしていた文化が「フラット化」されてきた世界においても、私達は文化を脱ぎ捨てることはできません。そのなかで、いままでコンピュータで定量化できなかった感情・意識・物語・民族性といった人々に内属するものを扱い、精神に触れるアートイノベーションがより不可欠になっており、その研究によりグローバルコミュニケーションの深化を目指しています。

特に日本文化のコンピューティングに注目し、これまでコンピューティングの対象となつて来なかった(1)日本の移ろいやすい気象・自然風土「もののあわれ」などの無常思想や「わび、さび」などの美意識、(2)日本文化とアジア文化の関係、(3)神仏習合を根底とした文化構造、(4)和歌、俳諧や能などの日本語独特の特性、(5)日本的意匠(紋、織、色、型)を研究しています。

<略歴>

最新の科学技術を駆使して作品を制作するメディア・アーティスト。1985年に制作した作品「An Expression」がニューヨーク近代美術館に収蔵されている。2005年より、京都大学の教授として「メディア・アート」などの講義を受け持つ。1999年東京大学大学院工学研究科にて芸術とテクノロジー研究で博士号取得。2002～2004年 マサチューセッツ工科大学 Center for Advanced Visual Studies フェローアーティストを経て、現職

<著書紹介>



Cross-Cultural Computing: An Artist's Journey

著者:Naoko Tosa

出版社:Springer UK



カルチュラルコンピューティング

著者:土佐尚子

出版社:NTT 出版



TOSA RIMPA 土佐尚子作品集

出版社:淡交社

研究室紹介 web

<http://tosa.gsais.kyoto-u.ac.jp/>

